



1・2年生と園児の学習の様子

## 子どものうちから 人権意識を持って

奥春別小学校で人権教室



子どもたちに人気のマスコット



3年生以上の学習の様子

子どもの人権教室は、いじめなどの問題が深刻化する中、全国的な広がりをみせていて、釧路管内では全ての市町村で開催されています。

当日は、奥春別森の保育園の園児も参加。1・2年生と園児は、やさしさと思いやりをテーマにした「みんな友だち」という教材DVDを見た後、内容について話し合い、みんなで仲良くしていこうと確認し合いました。3・6年生は、いじめを取り上げた「プレゼント」という教材DVDを見た後、それぞれ自分の意見を発表し合いました。

釧路人権擁護委員協議会主催の人権教室が5月8日、奥春別小学校(蝦名尚志校長)で開催されました。「思いやりの心」を育てる教育に力を入れている同校が同協議会に依頼したもので、今年で4回目。講師に東北海道子どもの人権専門委員の石川征支朗さんを迎え、弟子屈町人権擁護委員の朝日英明さん、小澤修子さん、小泉裕さんの協力で開催されました。

## 若手が被災地を支援

東星渡部建設が南三陸町で復興支援



漁業支援でコンブを選別

震災の爪あとはいまだ深く、復興まではまだ時間がかかると実感し、息の長い支援を誓ったそうです。震災の爪あとはいまだ深く、復興まではまだ時間がかかると実感し、息の長い支援を誓ったそうです。

東星渡部建設(山村五十三代表取締役)の皆さんが、4月12日から20日にかけて、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町で復興支援のボランティア活動を行いました。2月に行われた工事部月例会議で、東日本大震災を忘れてはいけないということから、30歳代の若手社員を中心とした10人が被災地に赴くことが決まりました。



がれきの処理を行う皆さん

宮城県北東部に位置する南三陸町は、昨年3月11日の東日本大震災において、震度6弱を観測。地震に伴う津波により、人口約1万8千人のうち約9千人が被災、死者・行方不明者は1千人を超えました。町内の建物の7割が津波に飲まれ、役場庁舎も流されました。自らの命を懸けて、防災無線で町民に対し高台への避難を呼び掛けた役場職員がいたことも、報道などでよく知られています。

同社の皆さんは、同町内のキャンプ場を拠点に、がれきの処理や農業耕地作業・漁業支援などの復興支援活動を行いました。また、小学校の体育器具の購入に充ててほしいと、義援金を贈りました。

### 町の話題



### 町の話題

### 町の話題



### 町の話題

## 地域に貢献する心を育てる

弟子屈小学校児童が校舎外清掃



修武館の階段下のごみも丁寧に



こんなにたくさんのごみがあったよ

弟子屈小学校(阿部典子校長)の児童の皆さんが5月14日、校舎外清掃を行いました。校舎外の環境整備を行うとともに、地域に貢献する心を育てようといわれたものです。学年ごとに各清掃場所へ行き、火ばさみとごみ袋を手にごみ拾いや清掃を行いました。3年生以下の児童は、グラウンドや校舎の周り、遊具周辺など、主に学校の周りのごみや枝拾いなどを実施。4年生以上は、修武館や郵便局、役場周辺など、地域の施設周辺の清掃を行いました。汗ばむ陽気の中、たくさんのごみを集めた児童からは、ごみの多さに驚く声も聞かれました。



弟子屈のブースにもたくさんの方が

7月には、日置市の皆さんが物産交流で弟子屈に来町する予定です。まつりでは、本町の特産品販売と観光名所などの紹介を行うコーナーを設置。アイスクリームやジャガイモ、トウモロコシ、乳製品などを販売しました。また、観光紹介では摩周湖が人気を集めていました。

## 20回目の節目を記念して

姉妹都市の日置市「ふるさと港まつり」に出店

本町の姉妹都市である鹿児島県日置市の江口漁港で5月3日に開催された「第20回ふるさと港まつり」に本町関係者も参加し、特産品の販売と観光PRを行いました。

同市の江口漁協などが中心となって毎年開催されているこのイベントは、魚のつかみどりや漁船乗船体験などが行われ、例年1万人を超える人出でにぎわいます。今年20回目の節目を迎えることから、同市長より物産交流の依頼があり、吉備津副町長、八幡町議会議長、鈴木町議会議員、摩周湖農協と町振興公社の職員などが参加しました。



気温27℃の中、弟子屈町をPR